

## 平成25年度 大田区訪問介護事業者連絡会との懇談会

日時 平成25年6月5日(水) 15時30分～17時00分

場所 大田区本庁舎 8階801会議室

参加者

大田区福祉部 介護保険課 介護基盤担当課長 澤 富男 氏  
居宅サービス担当係長 鈴木 規行 氏  
居宅サービス担当 金野 裕 氏  
介護保険課 給付指導担当係長 大津 博 氏  
高齢事業担当課長 高齢支援担当係長 南部氏 (議題2のみ参加)

大田区訪問介護事業者連絡会

カラーズ	田尻久美子
エンゼルケアアシスト城南	吉田 実
アーネストケア	相楽 裕
アクセス訪問介護ステーション	北原 修二
スマイルケア	大野 修
ケアシーン	瀬尾 孝行
はせさんずヘルパーステーション	栈敷 洋子
ホームケア井上	大井 学
ヘルパーステーション池上長寿園南蒲田	水沢 吉伸
アクセス	神山 慎一 (議事録作成)

議事次第

### 1、大田区福祉部 介護保険課 介護基盤担当課長 澤課長 挨拶

本日は、お忙しい中おいでいただきありがとうございます。本日の会の目的は、事業者の皆様方と日常の有意義な情報交換を行い、介護保険サービスの質の向上を目的に開催しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 2、大田区訪問介護事業所連絡会 田尻会長 挨拶

大田区福祉部の皆様におかれましては日ごろから介護保険事業および当連絡会の運営にご協力をいただきありがとうございます。当連絡会は、大田区の職能団体では一番新しい会でありまして今年で設立4年目を迎えております。訪問介護事業の質の向上、サービス提供責任者、ヘルパーの地位向上および大田区への地域貢献をテーマに日々活動させていただいております。訪問介護事業は在宅サービスの要であると位置づけられていると思いますが、サービスの質や日々の業務運営においては悩みの多い事業でもあります。本日は貴重なお時間をいただいております。会からの質問にご回答をいただくだけでなく、お互い

目指す部分は大田区にお住まいの高齢者の方のよりよい生活だと思いますので、忌憚の無い意見交換を進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

### 3、参加者自己紹介

#### 4、大田区からの報告事項

##### 平成24年度の介護保険課給付について、給付指導担当から報告

平成24年度の給付費実績について全体で約400億円であった。昨年度より7.5%増加。居宅サービス費の全体としては258億円で9%増加しており、施設サービスより伸びている。また、訪問介護事業については約50億円の給付費で4.7パーセントの増加。トップは、通所介護の13.1%である。通所介護事業は71億、特定施設入居者生活介護が51億であり50億の訪問介護は居宅の中では3番目である。

次に、平成24年度訪問介護事業所6事業所における指導、指摘事項について別紙のとおり説明が行われた。

表の右側の欄の数字については6事業所のうちの指摘数を指している。

この内容については、整理したうえで大田区ケア倶楽部にアップする予定であるので参考にされたい。

### 5、議事

#### 議事1、訪問介護事業の法令遵守に向けた協働について

##### ●連絡会

昨年度は、当連絡会の研修会に介護保険給付指導担当の方にお越しいただき、訪問介護事業所が法令解釈で迷うことが多い「通院介助の取り扱い」について質疑応答を含め、わかりやすくご指導いただいた。

参加者は100名程度であり、一堂に会して説明を聞いたことで、いわゆる風評による誤った解釈を防ぐことができた。

通常の業務の中で、給付係に個別で対応し、同じような内容での問い合わせがあったようですが、全参加者に情報の共有ができたことで大変有意義であった。

今後も継続的にご指導をいただければ、大変ありがたい。

##### ○大田区

呼びいただければ協力できる範囲で対応したい。現場では苦勞されていることもよくわかるし、給付に関しては、一律に言い切れないことが現場ではおきていると認識している。給付としての判断だけでなく、ケアマネージャー、サービス提供責任者の考え方、他のケースとの関係性など杓子定規に判断できず、ある程度の調整が必要であると認識している。場合によっては、さわやかサポートとの連携も必要だと考えて

いる。保険者の立場で皆様に情報提供を行っていきませんが、現場での細かい調整は介護支援専門員が担っていただきたいと思っています。

●連絡会

基本的には、サービス担当者会議で判断が偏らないように留意していきたいと考えている。今後、先日の通院介助に対する質問もまとめて会からお伝えするので、QA集として追加してほしい。

◎事務局

訪問介護事業所連絡会である程度まとめていただき、区へ提案して頂ければ対応する。

## 議事2、大田区の施策について

### (1) 家族介護者支援ホームヘルプサービスについて

●連絡会

家族介護支援の実施状況について、どのような現状があるか？現場では、限度額越えのケースで自費分を補う形で利用するケースもあり、いわゆる高額利用者の助成になっているだけで、家族のレスパイトに繋がっていないという意見も散見されている。

○大田区

利用者数	23年度	205人	24年度	288人
利用時間	23年度	2166時間	24年度	2610時間

利用者は24年度には40%増加し、利用時間が20%増加であった。

この制度は、21年度に開始し区の事業としてはまだ新しい。これまでの経過は下記のとおり。

22年度のアンケート結果により、23年度は一時間単位でも利用可とし、25年度には2号被保険者の利用も可能にし拡大に努めた。

実態として高額利用者助成になっているという点については、直接、利用者の方と接する部署ではなかったので聞こえてきていない。そのことが、結果的にレスパイトにつながっていないという会の意見とも繋がっているのだと思う。

今後は、地域福祉課や窓口となっている包括と話し合いながら進めていきたい。

●連絡会

介護保険の適用とならない通院介助時の自費負担分について、低所得の方や生活保護の方を中心に対処が非常に難しくなっている。このような部分も認識していただいて区の施策を検討していただきたい。

○大田区

通院介助の件は継続案件になっており、継続して検討していきたい。

●連絡会

今回、利用者の拡大として2号被験者まで拡大した理由は何か？アンケートなどの結果か？

また、以前も要介護3以上に枠を拡大してほしい旨を会としてお伝えした部分があると思う。実際には介護3程度の方で徘徊などの周辺症状により、介護負担が大きくなっているケースも多く、デイサービスだけでは無くヘルプサービスの利用によってレスパイトできることも多くあるはずである。今回は要介護による対象者の拡大ではなく第2号被保険者である年齢による対象者の拡大に方向性を持って行ったのか。

○大田区

アンケートの結果もあるが、末期がんの方や若年性の認知症の介護者を支援する仕組みが区としても取り組めていないこともあり必要性を感じて実施した。

今のところは2号被保険者の拡大として様子を見ていきたい。要介護3の方という部分ではいまのところ考えていない。予算の執行率は40%であり当初の見込みより低い。実績をふまえながら今後も推進していきたい。一度利用した方には自動的に更新し利用券を発送している。

●連絡会

昨年度の意見交換会では、利用推進には事業所が行うことが一番適しているという一方で、サービス事業者の立場からすると、長時間利用には人件費コストがかかり報酬は長時間になるほど下がるということから進めずらい部分もあるということをご提案させていただいた。さらに夜間帯には人件費コストがかかるなど（ヘルパーが5時入り8時退室だと通常の利用料となる）さらに採算上むずかしい部分もあることから事業所としては推進しづらいのではないかと。このことを改善するために利用料の改正についてもお願いした経緯がある。

○大田区

報酬については一時間ごとのほうがよいということか？

●連絡会

レスパイトを目的としていることは十分に理解していても、採算から考えると説明の段階で、一時間しか使えないというような誤った説明になりかねないのではないかと。そのようなことから、実際には1時間のほうが主体であり、長くても3時間レベルではないかと。

区のほうで、全体の利用実績も見ていただきながら、報酬単価の設定などについても検討していただくほうがよいと思われる。もちろん、会としては、区よりよい施策推進のためにアンケートをとるなどの協力は惜しまない。

○大田区

事業者の方が伝えづらいということであれば、推進は難しいと思われるので、時間帯の統計は出せるので調べて今後に生かしていきたいと思っております。

## (2) 地域包括システムの基盤整備、24時間定期巡回・随時対応サービスについて

### ●連絡会

今後の区の計画をお聞きしたい。

### ○大田区

大田区のホームページで24時間定期巡回・随時対応サービスについて公募を始める予定。6月の中旬以降から長期にわたり公募をかけ、秋ごろには決めていきたい。事業計画としては、24年度に調査し25年度公募、25年度実施の予定である。目黒、渋谷、大田はまだ設置されていない。他区では開始しているが、利用者数は一箇所の事業所あたり10名を超えない実態がある。このような利用者が少ない実態の中で、複数の事業者が参加した結果、開始した事業者が途中で実施できないというようなことの無いよう、区としても検討中である。

### ●連絡会

区では、定期巡回を始めるにあたり使う予定の方など、ニーズの調査をしているのか？

### ○大田区

23年度に訪問介護・看護の事業者の調査を実施したが、あまり積極的な回答は得られなかった。現在、夜間帯にヘルプを実施している2箇所の事業者の状況を見ると、利用者数も伸びていない。ケアマネやさわやかなど窓口の意見を聞くと、深夜帯のヘルパーが違う人だと受けづらいなど、利用慣れも必要などの声も聞いている。24年度は他区の調査を行い、25年度に実施できるようにしたい。25年月の平均で10人、26年15人程度の利用者数をサービスの量として見込んでいる。

### ●連絡会

公募して地域が決まるのか、大田区全体の中で重点地区とかモデル地区とかあるのか。また、設置運営にあたり予算上はどうなっているか？助成や補助金はあるか？

### ○大田区

公募要件については、最終段階のつめに来ている。

助成、補助については無い。この事業独自の予算は組まれていない。事業者の数は計画の中に入れていないので設置はできる。居宅全体の予算としては400億で組まれているので、その中であれば可能であると考えている。

### ●連絡会

地域包括ケアシステムの基盤整備には区内の事業者の力を活かして、大田区独自のものができるよう協力していきたい。

### 議事 3、介護事故の情報共有について

#### ●連絡会

事業所から事故報告について、累積事例など、連絡会などで周知していただけると情報の共有が図れ、事業者としてもリスクマネジメントの視点、サービスの質の向上に有用である。

#### ○大田区

24年度の累積、集約をさせていただき連絡会などで、お伝えしたいと考えている。

## 4. その他

### (1) 大田区HPへの事業者電話・fax番号の記載について

#### ●連絡会

大田区ホームページに掲載されている事業者一覧について電話番号は入っているが、FAX番号も掲載して頂きたいと提案したい。

#### ○大田区

ホームページへの掲載は利用者の方の利用にあたってのものである。ファックスについては、個人情報の問題もあり掲載は難しい部分もある。連絡会で必要であれば会長から依頼文があれば、取り扱いに注意のうえお渡しできる。

### (2) 年2回、大田区主催で行っている事業者連絡会のあり方について

#### ●連絡会

より実のある連絡会になるよう一方通行的な内容にならない方法として、区内4圏域ごとにまたは部門別に開催してはどうか？または、大森地区、蒲田地区の2分割はどうか？

#### ○大田区

他区では、事業者別の実施している区もあること、昨年度も同様の提案を連絡会にいただいていることは認識している。年2回のうち第一回目は、制度改正などで多くの担当課からの報告になっている。事業所のアンケートを踏まえながら開催計画としているが、エリアわけをすることだけでは、一方的になりやすいことの解決策にはならない。事業種別ごとで行うことはひとつの案であるとも思うので検討してみる。現在は一回の全体開催をお願いをしている。

### (3) 高齢者の虐待について

#### ●連絡会

事業者説明会では、担当者の方から熱心な説明をお受けしている。サービスを提供する側としては、疑わしきものは報告をと認識し、各事業所から報告をあげているが、報告後の経過や結果について、報告者にはどのような形でフィードバックされているのか。

また、ケースの累積やデータの集積があれば報告をしてほしい。

◎事務局

担当者に確認のうえ連絡会会長経由で報告させていただきたい。

**(4) 日常生活総合支援事業について**

27年度からの予防対象者に対する生活援助が介護保険給付から外れた場合、大田区としてはどのように考えているのか？いわゆる日常生活総合支援事業の導入についてはどうか。訪問介護事業の生活援助によって多くの高齢者の生活を支えてきている実態もあり、この部分は会としても大変気になっているところでもある。

○大田区

国の介護保険部会では、27年度からは保険制度とは別枠で、日常生活総合支援事業として実施していくと議論している。大田区も情報収集を行っているが、現在区の明確な答えはない。保険者として都・国に意見を上げる機会があるので、区にご意見等については上げて欲しい。

以上